

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
I-1-(2)-⑤ 子どもの特性を伸ばす教育の充実	1	博物館セカンドスクール事業	自然史・歴史博物館普及課	博物館を第二の学校と位置づけ、修学旅行・社会見学など学校教育の一環として、子どもたちの博物館利用の促進を図るものである。	学校団体誘致数 ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	1,116団体(H24年度)	目標 1,200 団体 実績 1,320 団体 達成率 110.0 %	1,200 団体 1,043 団体 86.9 %	1,000団体以上(毎年度)	1,617	1,320	2,901	16,075	課長 0.05 人 係長 0.50 人 職員 1.40 人	順調	隣接する大規模テーマパークの閉園に伴い来館者数の減少が予測されたため、来館実績及び来館予測に基づいた誘致活動を実施した。その結果、学校団体誘致数、団体入館者数の減少を最小限にとどめることができたため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 学校教育の一環として、常設展示を使った学習や体験学習を行うことを提案したことや、イベント活動など子どもも楽しめる企画を実施したことで、来場者の目標を概ね達成したため「順調」と判断。  【課題】 常設展示の見直しや若年層などの入館を促す仕組みづくり、学校団体の誘致などが必要となる。	博物館を第二の学校として位置づけ、子どもたちの学習意欲を喚起するなど、学校教育支援をさらに推進する。 また、文学館については展示リニューアル後も展示や企画の充実、周辺施設との連携などにより、来館者やリピーターの増加を図る。	
	2	文学館普及研究費	文学館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	入館者数 ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	10,741人(H23年度)	目標 22,000 人 実績 22,536 人 達成率 102.4 %	22,000 人 21,711 人 98.7 %	7,500人(R1年度)	19,455	16,912	18,628	12,625	課長 0.50 人 係長 0.50 人 職員 0.25 人	順調	入館者数は、常設展では減少したものの、特別企画展では増加し、目標を概ね達成したため「順調」と判断。				
I-1-(3)-② 家庭教育支援の充実	3	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	小: 93.0% 中: 91.9% (H25年度)	目標 小: 99% 中: 99% 実績 小: 92.4% 中: 91.0% 達成率 小: 93.3% 中: 91.9%	小: 100% 中: 100% 小: 91.8% 中: 89.0% 小: 91.8% 中: 89.0%	小: 100% 中: 100% (H30年度)	5,529	3,993	7,111	9,150	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.80 人	順調	近年、核家族世帯や共働き世帯の増加等、子どもや家族を取り巻く環境が大きく変化したことにより、家庭教育支援プロジェクトを立ち上げ、家庭教育学級の運営方法等を見直した。また、家庭教育学級開設数の目標値は達成しなかった(目標: 370箇所、実績: 321箇所)が、達成率が8割を超えているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 成果指標については、概ね横ばいで推移しており「順調」と判断。  【課題】 核家族世帯や共働き世帯の増加等、世帯構成の多様化により、家庭教育学級へ参加できない保護者に対する学習機会及び役立つ情報の提供方法の検討が必要である。	今後、家庭教育学級の実施・運営方法等について、関係者へアンケートを実施するなど見直し効果を検討する。 また、子育てサポーター養成後、実際の活動につながるよう、市民センターや関係局との協議を継続する。	
I-1-(3)-③ 地域全体が教育を支える社会の実現	4	家庭・地域・学校パートナーシップ事業	生涯学習課	家庭教育学級や子育てサポーターなどの活動を通じて、保護者の不安を軽減するため、関係機関や関係部局と連携しながら、情報提供、啓発活動を行い、保護者が家庭教育について学ぶ機会の充実、子どもの基本的な生活習慣定着への理解を促すための情報提供、啓発活動を進める。	朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	小: 93.0% 中: 91.9% (H25年度)	目標 小: 99% 中: 99% 実績 小: 92.4% 中: 91.0% 達成率 小: 93.3% 中: 91.9%	小: 100% 中: 100% 小: 91.8% 中: 89.0% 小: 91.8% 中: 89.0%	小: 100% 中: 100% (H30年度)	5,529	3,993	7,111	9,150	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.80 人	順調	近年、核家族世帯や共働き世帯の増加等、子どもや家族を取り巻く環境が大きく変化したことにより、家庭教育支援プロジェクトを立ち上げ、家庭教育学級の運営方法等を見直した。また、家庭教育学級開設数の目標値は達成しなかった(目標: 370箇所、実績: 321箇所)が、達成率が8割を超えているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 ほぼ全ての市立幼稚園、小・中学校、特別支援学校において、地域活動の拠点である市民センターを核として、家庭教育学級の取組みを行った。 また、成果指標については、概ね横ばいで推移しており「順調」と判断。  【課題】 核家族世帯や共働き世帯の増加等、子どもや家族を取り巻く環境が大きく変化したため、今後、市民センターが核となって、家庭・地域・学校が連携する仕組みを充実させる必要がある。	今後、家庭教育学級の実施・運営方法等について、関係者へアンケートを実施するなど見直し効果を検討する。 また、子育てサポーター養成後、実際の活動につながるよう、市民センターや関係局との協議を継続する。	

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
I-3-(1)-① 多様な学習機会や学習情報、学びの場の提供	5	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。また、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成する。	生涯学習市民講座参加者数 ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	93,589人(H25年度)	目標 100,000人 実績 84,107人 達成率 84.1%	100,000人 127,391人 127.4%	110,000人(R2年度)	17,125	15,119	14,240	6,900	課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.50人	順調	生涯学習市民講座参加者数の達成率が120%を超えており、また、生涯学習に関する満足度についても前年度より上昇しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 生涯学習市民講座参加者数の達成率が120%を超えており、また、生涯学習に関する満足度についても前年度より上昇しているが、生涯学習推進コーディネーターの配置割合が目標値に達していないため「順調」と判断。 【課題】 生涯学習市民講座については、地域課題解決や地域活動を目指す講座を増やす必要がある。	地域に根付いた活動を実施するため、地域の実情を反映し、地域課題の解決につながる講座を増やしていく。 また、生涯学習推進コーディネーターについては、研修会や市民センター訪問時にコーディネーターの必要性を館長に周知していく。	
	6	生涯学習推進コーディネーター配置事業	生涯学習課	多様化・高度化する市民の学習要求に応え、生涯学習事業の充実及び学習の促進を目的に、全市民センター及び生涯学習総合センターに生涯学習推進コーディネーターを配置する。	生涯学習推進コーディネーターの配置割合	56.2%(H25年度)	目標 70% 実績 56.2% 達成率 80.3%	75% 51.5% 68.7%	85%(R2年度)	8,890	6,644	7,256	3,650	課長 0.10人 係長 0.10人 職員 0.20人	順調	生涯学習推進コーディネーターの配置割合は目標値には達していないが、要項の見直しや研修会の実施等により生涯学習推進コーディネーターの配置割合向上を図っているため「順調」と判断。				

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善				
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H30年度		H29年度	人件費(目安)			H30年度				R2年度予算要求に向けた 施策の方向性
					指標名等	現状値 (基準値)	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	
I-3-(2)- ① 地域活動を リードする人材 の育成	7	北九州市民カレッジ事業	管理運営課	市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進および「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図る。 北九州市民カレッジの講座は、生涯学習総合センター主催コース(まちづくり・人材育成系、総合・教養系の2コース)と高等教育機関提携コースを前期・後期の2期で実施。	受講者数	1,435人 (H28年度)	目標 1,410人 実績 1,477人 達成率 104.8%	1,440人 1,682人 116.8%	1,500人 (R2年度)	5,373	4,329	4,935	20,700	課長 0.30人 係長 0.90人 職員 1.10人	順調	受講者数が大幅に増え、受講者の満足度も継続的に高い数字を達成していることから、「順調」と判断。			
	8	生涯学習活動促進事業	生涯学習課	各市民センター等で、地域課題や現代的課題等の解決を目指す講座、心と体の健康づくりを目指す講座など幅広い分野にわたる講座を実施する。また、それぞれの地域の特色を生かし、家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに様々な体験活動や世代間交流の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組み機運を醸成する。	生涯学習市民講座参加者数	93,589人 (H25年度)	目標 100,000人 実績 84,107人 達成率 84.1%	100,000人 127,391人 127.4%	110,000人 (R2年度)	17,125	15,119	14,240	6,900	課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.50人	順調	生涯学習市民講座参加者数の達成率が120%を超えており、また、生涯学習に関する満足度についても前年度より上昇しているため「順調」と判断。	順調	住民主体の地域づくりを促進するため、生涯学習市民講座などにおいて地域課題解決の講座、学んだ成果を活かす講座、地域交流を目指す講座を充実させていく。 そうした地域活動をリードする人材の発掘、育成、活動を図るため、学習者の活動意向を把握し、活動へつなげるための仕組みづくりなど支援を行う。	
					生涯学習活動に関する満足度	96.3% (H25年度)	目標 90% 実績 87% 達成率 96.7%	90% 93% 103.3%	90%以上 (R2年度)										
9	地域課題解決のための人材活用支援事業	生涯学習課	地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、地域人材の発掘～育成～活動までを体系的に支援し、地域力アップにつなげる仕組みをつくる。学んだ成果を地域に活かす講座の開催、地域活動をリードする人材育成事業(市民センター館長等研修など)及びボランティア(アドバイザー)グループによる支援事業を実施する。	「地域活動をリードする人材やボランティア活動に取り組む人材が増加していると感じる」に肯定的な回答をした割合	37.6% (H27年度)	目標 54% 実績 30.6% 達成率 56.7%	56% 32.1% 57.3%	60%以上 (R2年度)	1,000	650	89	5,400	課長 0.10人 係長 0.20人 職員 0.30人	順調	市政モニターアンケート結果では、目標達成しなかったものの、人材マッチングモデル事業は、引き続き、年長者大学校周防学舎などと連携し、目標の4館の市民センターで実施した。また、地域活動をリードする人材育成として、市民センター館長等研修に選択制を導入するなど、より効率的・効果的な研修となるよう改善し実施した。したがって「順調」と判断。				
I-3-(2)- ② 地域を支えるボランティアの育成	10	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計)	88法人 (H29年度)	目標 90法人 実績 88法人 達成率 97.8%	105法人 99法人 94.3%	135法人 (R2年度)	19,990	18,324	18,588	19,725	課長 0.15人 係長 0.30人 職員 2.00人	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	市民活動のさらなる促進のため、新たな活動参加者の掘り起こしとともに、活発に活動する市民活動団体を育成していくことが必要である。	
					サポートセンター利用者数	24,338人 (H29年度)	目標 24,500人 実績 24,338人 達成率 99.3%	25,000人 28,683人 114.7%	25,000人 (毎年度)										

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性			
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題				
II-1-(1)-② 市民の消費生活の安定と向上	11	消費者啓発の推進	消費生活センター	悪質化・巧妙化する消費者被害を未然に防止するため、法律相談会や消費者啓発・教育講座等、消費者自身が危機回避や被害にあった場合の適切な対処法を身に付けるための各種事業を実施するなど、啓発の推進や支援を行う。	消費生活センターの認知度	92% (H23年度)	90%	90%	90%以上(毎年度)	19,217	14,444	23,541	8,075	課長	0.05人	順調	消費生活センターの認知度及び、消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合とともに目標値を上回り、高い数値を維持しているため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 消費生活センターの認知度及び消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合がそれぞれ目標の90%を超えて推移していることから、「順調」と判断。  【課題】 消費者トラブルが多発している中で、消費者から最初に連絡を受ける存在として、今後も安定した活動を推進する必要がある。	今後も効果的・効率的な啓発活動に努め、相談窓口の周知とともに、賢い消費者の育成を図り、被害防止に取り組んでいく。			
					消費生活センター等に相談又は相談を勧める市民の割合	91.5% (H26年度)	90%	90%	90%以上(毎年度)					職員	0.60人								
II-1-(3)-① 「北九州市安全・安心条例」の制定と安全・安心に関わる施策の推進	12	日本トップクラスの安全・安心なまちづくり関連事業	安全・安心推進課	警察、関係団体等と連携し、市民等の防犯意識の向上や自主防犯活動の活発化、安全・安心な環境の整備などに取り組む、日本トップクラスの安全・安心なまちづくりを推進する。	防犯パトロール活動への参加者数	14,170人 (H27年度)	16,000人	18,000人	20,000人以上(R1年度)	15,785	15,698	15,835	15,900	課長	0.10人	大変順調	防犯パトロール活動への参加者が10,170人増加し、市民の体感治安も大幅に改善していることから、「大変順調」と判断。	順調	【評価理由】 防犯パトロール活動への参加者や「安全セミナー」「地域安全マップづくり」の実施校数の増加など、犯罪予防の活動が充実してきている。 結果として、市民が感じる治安状況の改善に繋がっている。 また、安全・安心総合相談ダイヤル事業について、円滑に運営出来ており、「順調」と判断。  【課題】 性犯罪の対象拡大もあり、性犯罪の認知件数が増加していることから、防犯対策の推進が必要である。 また、体感治安の更なる向上のため、引き続き安全・安心に関する取組の情報発信が求められる。	県警察などと連携し、地域の生活安全パトロール隊に粒度の高い犯罪情報を提供しパトロール活動に生かすなど、警察・地域と連携した性犯罪抑止活動を推進する。 また、犯罪認知件数の減少に伴って体感治安の改善が伴うよう、引き続き安全・安心に関する活動の推進を図るとともに、効果的・効率的に安全・安心なまちづくりに向けた情報や取組を市内外に発信していく。 安全・安心総合相談ダイヤル事業は、市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け、市民の相談機会の充実と不安感解消を図るものであるため、継続して事業を実施していく。			
					市民が感じる治安状況(体感治安)	73.7% (H27年度)	77.9%	77.9%	90%(R1年度)					職員	1.50人								
	13	子どもと女性の犯罪被害防止対策事業	安全・安心推進課	子どもや女性の犯罪被害を防止するため、子ども自身や子どもを見守る保護者、女性を対象とした安全セミナー等を開催し、防犯意識や知識の向上を図る。	「安全セミナー」「地域安全マップづくり」延べ実施校	35校 (H25年度)	80校	105校	125校(R1年度)	3,453	2,790	1,705	15,900	課長	0.10人	順調	「安全セミナー」や「地域安全マップづくり」の延べ実施校数において目標を達成したことから「順調」と判断。	順調	性犯罪認知件数	104件 (H25年)	87件	87件	件数減(毎年)
					性犯罪認知件数	104件 (H25年)	75件	82件	件数減(毎年)					職員	1.50人								
	14	安全・安心総合相談ダイヤル事業	安全・安心相談センター	市民生活の身近な安全・安心に関する相談を受け付ける「安全・安心総合相談ダイヤル」を円滑に運用し、市民の相談機会の充実と不安感解消を図る。	安全・安心総合相談ダイヤルの認知度	22% (H27年度)	24.1%	24.1%	前年度比増(毎年度)	21,172	19,191	19,290	15,900	課長	0.10人	順調	安全・安心総合相談ダイヤルについて、認知度については微減であったものの、円滑に運営出来ており、「順調」と判断。	順調	安全・安心総合相談ダイヤルについて、認知度については微減であったものの、円滑に運営出来ており、「順調」と判断。				
					安全・安心総合相談ダイヤルの認知度	22% (H27年度)	28.8%	27.7%	前年度比増(毎年度)					係長	0.35人						職員	1.50人	

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)				H30年度		H29年度	人件費 (目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた 施策の方向性						
					指標名等	現状値 (基準値)	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題				
II-1-(3)- ② 防犯活動 の強化	15	地域防犯対策事業	安全・ 安心 推進 課	北九州市安全・安心条 例では、「市民等は安 全・安心に関する意識を 自ら高め、行動すること」 「市及び市民等は相互に 連携を深め、防犯活動 を協力して推進すること」 と定められている。 この事業では、市民の防 犯意識を高め、地域住民 の自主防犯活動を促進し、 安全・安心を実感でき るまちの実現を図る。	街頭犯罪件数	6,612件 (H25年)	目標	前年 (3,809件) 比減	前年比減	前年比減	30,150	29,481	35,055	15,900	課長	0.10 人	順調	通勤や買い物等の途中に防犯 の視点を持って地域を見守る 「ながら見守り活動」等を推 進し、同取組に賛同する企業 が140社を超えるなど、地 域の見守りの目は増加して おり、街頭犯罪認知件数や 市民が感じる治安などが 目標を達成していること から、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 「ながら見守り活動」等を推 進し、地域の見守りの目が 着実に増加していることや、 刑法犯認知件数や市民が感 じる治安状況が目標を達成 していることから「順調」と 判断。  【課題】 様々な取り組みにより、犯 罪件数や体感治安にその成 果が表れてきているが、さ らなる整備事業により防 犯活動強化を推進していく 必要がある。	引き続き、防犯カメラや防 犯灯の整備による防犯活動 強化を図るとともに、設置 後の適正な維持管理・運用 に努める。			
							実績	3,467 件	2,727 件						達成率	109.0 %						121.3 %	係長	0.35 人
							目標	前年度 (77.9%) 比増	前年度比 増						90% (R1年度)	職員						1.50 人		
16	防犯灯設置事業	安全・ 安心 都市 整備 課	夜間における犯罪の発 生を未然に防止し、公衆 の通行の安全を図るため 地域と市が協力しながら、 防犯灯を設置。 防犯灯の設置にあつては、 LED防犯灯の設置促進を図 り、町内会等の地域の防犯 灯の設置のため費用の一部 を助成し、明るく安心して 生活できるまちづくりを推 進。	刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)	目標	前年 (8,124件) 比減	前年比減	8,000件 (R1年)	116,823	55,933	70,983	3,435	課長	0.04 人	順調	防犯灯の設置(LED化)が進 み、刑法犯認知件数や市民 が感じる治安状況が目標を 達成していることから「順 調」と判断。							
						実績	7,570 件	6,504 件						達成率	106.8 %					114.1 %	係長	0.17 人		
						目標	前年度 (77.9%) 比増	前年度比 増						90% (R1年度)	職員					0.17 人				
17	通学路防犯灯事業	安全・ 安心 都市 整備 課	通学路において、市に よるLED防犯灯の設置を 行い、通学路の夜間の安 全確保に取り組む。	刑法犯認知件数	9,682件 (H27年)	目標	前年 (8,124件) 比減	前年比減	8,000件 (R1年)	15,900	7,685	10,115	3,435	課長	0.04 人	順調	刑法犯認知件数や市民が感 じる治安状況が目標を達成 していることから「順調」と 判断。							
						実績	7,570 件	6,504 件						達成率	106.8 %					114.1 %	係長	0.17 人		
						目標	前年度 (77.9%) 比増	前年度比 増						90% (R1年度)	職員					0.17 人				

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
18	防犯カメラ事業		安全・安心都市整備課	暴力団犯罪をはじめ街頭犯罪を抑制し、市民生活等の安全・安心を確保するため、人が多く集まる繁華街や幹線道路に既に設置している防犯カメラの適正な維持管理、運用を行う。	繁華街における刑法犯認知件数	目標	前年(957件)比減		前年比減(毎年)	46,111	44,010	44,510	3,435	課長	0.04	人	順調	防犯カメラの適正な維持管理のもと、そのデータは有効に活用されており、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が目標を達成していることから「順調」と判断。		
						実績	51件増													
						達成率	94.7%													
					市民が感じる治安状況(体感治安)	目標	前年度(77.9%)比増	前年度比増	90%(R1年度)	46,111	44,010	44,510	3,435	係長	0.17	人				
						実績	79.0%	85.2%												
						達成率	101.4%	107.8%												
刑法犯認知件数	目標	前年(8,124件)比減	前年比減	8,000件(R1年)	46,111	44,010	44,510	3,435	職員	0.17	人									
	実績	7,570件	6,504件																	
	達成率	106.8%	114.1%																	
19	防犯カメラ設置補助事業		安全・安心都市整備課	安全・安心条例の施行を機に、地域団体や事業者が犯罪抑止を目的として公共空間を撮影する防犯カメラを設置する際の経費の一部を補助することで、安全・安心な環境の構築に向けたさらなる取り組みを推進する。	刑法犯認知件数	目標	前年(8,124件)比減	前年比減	8,000件(R1年)	13,800	16,051	7,343	3,435	課長	0.04	人	順調	平成30年度は、目標補助台数を超える実績となり、刑法犯認知件数や市民が感じる治安状況が目標を達成していることから「順調」と判断。		
						実績	7,570件	6,504件												
						達成率	106.8%	114.1%												
					市民が感じる治安状況(体感治安)	目標	前年度(77.9%)比増	前年度比増	90%(R1年度)	13,800	16,051	7,343	3,435	係長	0.17	人				
						実績	79.0%	85.2%												
						達成率	101.4%	107.8%												

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)			H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題		
II-1-(3)-③ 暴力団追放運動の推進	20	暴力追放の推進	安全・安心相談センター	社会全体で暴力団を排除する取り組みを推進するため、事業者・市民の暴排意識を高める市民暴力追放総決起大会や暴力追放強調月間による集中的な啓発活動などを実施し、官民一体となって取り組む。	暴追対策に対して評価した市民の割合	48% (H25年度)	目標	前年度(73.6%)比増	前年度比増	前年度比増(毎年度)	13,601	8,351	9,145	12,850	課長	0.40人	順調	暴追対策に対する市民評価の割合については対前年比増となっており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 官民一体となった暴力団追放運動の推進に取り組んでおり、企業における暴力団排除条項の規定割合の増加や、市民による暴追対策への評価が向上してきていることから「順調」と判断。  【課題】 暴力追放運動に関する機運を醸成する取り組みや研修会を継続実施し、事業者及び市民の暴排意識を維持させることが必要。	引き続き暴力追放の取組を進めると共に、より細やかな民事介入暴力相談の実施等、内容の充実を図っていく。
						実績	71.9%	79%	達成率						97.7%	109.9%					
	企業における暴力団排除条項の規定割合	55.8% (H25年度)	目標	75%以上	単年度目標設定なし	前々年度比増(R1年度)	21,968	20,197	25,974	4,300	職員	0.70人	順調	暴追対策に対する市民評価の割合については対前年比増となっており、「順調」と判断。							
		実績	76.9%	—	達成率						102.5%	—			職員	0.00人					
21	民事介入暴力相談事業	安全・安心相談センター	市民生活への暴力団等の介入を排除し、安全・安心なまちづくりを図るため、民事介入暴力相談を実施。	暴追対策に対して評価した市民の割合	48% (H25年度)	目標	前年度(73.6%)比増	前年度比増	前年度比増(毎年度)	21,968	20,197	25,974	4,300	課長	0.20人	順調	暴追対策に対する市民評価の割合については対前年比増となっており、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 官民一体となった暴力団追放運動の推進に取り組んでおり、企業における暴力団排除条項の規定割合の増加や、市民による暴追対策への評価が向上してきていることから「順調」と判断。  【課題】 暴力追放運動に関する機運を醸成する取り組みや研修会を継続実施し、事業者及び市民の暴排意識を維持させることが必要。		
					実績	71.9%	79%	達成率						97.7%	109.9%					係長	0.20人
企業における暴力団排除条項の規定割合	55.8% (H25年度)	目標	75%以上	単年度目標設定なし	前々年度比増(R1年度)	21,968	20,197	25,974	4,300	職員	0.00人	順調	暴追対策に対する市民評価の割合については対前年比増となっており、「順調」と判断。								
	実績	76.9%	—	達成率						102.5%	—			職員	0.00人						

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度	人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題
II-1-(3)-④ 交通安全の推進	22	交通安全推進事業	安全・安心都市整備課	第9次北九州市交通安全計画に基づき、重点項目について啓発を実施。生涯にわたる交通安全教育及び効果的な広報啓発活動により、市民に広く交通安全思想を普及し、交通事故防止を図るもの。	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	目標	前年(7,729件)比減	前年比減	7,300件以下(R2年)	4,662	3,891	7,335	9,800	課長	0.20人	順調	小学校等での交通安全教室参加者数が目標を大きく上回っており(目標:27,000人、実績:40,706人)、交通事故発生件数が352件減少しているため、「順調」と判断。	順調	局施策評価の理由及び課題	R2年度予算要求に向けた施策の方向性
						実績	7,001件	6,649件						係長	0.30人					
						達成率	109.4%	105.0%						職員	0.60人					
					目標	前年(16人)比減	前年比減	23人(H26年)	22人					28人	19人以下(R2年)					
	23	交通安全センター管理運営	安全・安心都市整備課	北九州市立交通安全センターを管理するとともに、交通安全教室等を開催し、自転車の安全運転や、交通ルール・マナーの徹底を図る。	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	目標	前年(7,729件)比減	前年比減	7,300件以下(R2年)	27,573	27,572	27,572	3,650	課長	0.10人	順調	交通公園の入場者数(目標:187,715人、実績:231,433人)、安全教室の開催数(目標:508回、実績:583回)が目標を上回っている。また、交通事故発生件数、自転車関連事故発生件数ともに前年比較で減少したため「順調」と判断。	順調	局施策評価の理由及び課題	R2年度予算要求に向けた施策の方向性
						実績	7,001件	6,649件						係長	0.10人					
						達成率	109.4%	105.0%						職員	0.20人					
					目標	前年(777件)比減	前年比減	972件(H26年)	751件					701件	前年比減(毎年)					
	24	青少年交通安全推進事業	安全・安心都市整備課	青少年の交通事故防止のため、新小学一年生へ黄色い帽の配布や、中学生を対象とした自転車交通ルール検定などを実施し、交通安全の推進を図る。	自転車関連事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	目標	前年(777件)比減	前年比減	前年比減(毎年)	6,500	5,910	1,144	5,400	課長	0.10人	順調	自転車交通ルール検定の参加校数は目標(62校)を達成しており、自転車関連事故発生件数が前年比較で減少したため「順調」と判断。	順調	局施策評価の理由及び課題	R2年度予算要求に向けた施策の方向性
						実績	751件	701件						係長	0.20人					
						達成率	103.3%	106.7%						職員	0.30人					
					目標	前年(7,729件)比減	前年比減	7,729件(H28年)	7,001件					6,649件	前年比減(毎年)					
25	運転免許証自主返納支援事業	安全・安心都市整備課	高齢運転者が加害者となる交通事故の防止を図るため、高齢者運転シミュレーター体験教室や、運転免許証自主返納支援パンフレットを作成する。	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	目標	前年(7,729件)比減	前年比減	前年比減(毎年)	5,500	4,100	—	5,400	課長	0.10人	順調	高齢者運転シミュレーター体験教室開催数が目標を上回っており(目標:12回、実績:23回)、交通事故発生件数が352件減少しているため、「順調」と判断。	順調	局施策評価の理由及び課題	R2年度予算要求に向けた施策の方向性	
					実績	7,001件	6,649件						係長	0.20人						
					達成率	—	105.0%						職員	0.30人						

【評価理由】  
交通事故発生件数、自転車関連事故の発生件数は、着実に減少しているため「順調」と判断。

【課題】  
効果的な交通事故防止事業となるよう、対象を限定した事業を実施する必要がある。  
また、交通安全教育や啓発活動により、交通事故防止を図る必要がある。

引き続き交通事故防止について、子どもから高齢者まで幅広く啓発を行う。



平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題		
II-1-(3)-⑤ 非行や犯罪を生まない地域づくり	26	地域防犯対策事業	安全・安心推進課	北九州市安全・安心条例では、「市民等は安全・安心に関する意識を自ら高め、行動すること」「市及び市民等は相互に連携を深め、防犯活動を協力して推進すること」と定められている。この事業では、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図る。	街頭犯罪件数	現状値	6,612件(H25年)	目標	前年(3,809件)比減	前年比減	30,150	29,481	35,055	15,900	課長	0.10人	順調	通勤や買い物等の途中に防犯の視点を持って地域を見守る「ながら見守り活動」等を推進し、同取組に賛同する企業が140社を超えるなど、地域の見守りの目は増加しており、街頭犯罪認知件数や市民が感じる治安などが目標を達成していることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各種犯罪認知件数の減少とともに、市民が感じる治安状況も前年度比で改善しているため、「順調」と判断。  【課題】 体感治安の更なる改善のため、引き続き安全・安心に関する情報や取組を市内外に発信していくことが求められている。	犯罪認知件数の減少に体感治安が伴うよう、引き続き安全・安心に関する活動の推進を図るとともに、安全・安心に関する情報や取組を効果的に市内外に発信していく。
						実績	3,467件	2,727件	前年比減	達成率											
II-3-(4)-① 平和の尊さへの理解の促進	27	戦時資料展示コーナー管理運営事業	地域振興課	市民からご寄贈いただいた戦時下の資料を保管、展示することにより、北九州市立埋蔵文化財センター内に開設した戦時資料展示コーナーにおいて、戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを多くの市民に理解していただく。	戦時資料展示コーナー見学者数	現状値	3,647人(H22年度)	目標	4,000人	4,000人	1,329	1,278	1,366	1,220	課長	0.03人	順調	戦時資料展示コーナー見学者数が目標を上回っていることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 戦時資料展示コーナー見学者数は目標を上回っていることから、「順調」と判断。  【課題】 チラシの配布拠点を増やしているが、見学者数が昨年より減少したため、今後チラシを更新して広報の強化を図り、見学者数を増加させる必要がある。	戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを多くの市民に理解してもらうため、広報活動を通じて、戦時資料展示コーナーの周知に一層力を入れていく。広報活動を通じて、見学者数の増加に繋げていく。
						実績	5,039人	4,187人	4,000人(毎年度)	達成率											
III-1-(1)-④ 市民のモラル・マナーの向上	28	モラル・マナーアップ関連条例推進事業	安全・心都整備課	条例や基本計画に基づき下記事業に取り組む。 ・小倉・黒崎地区(迷惑行為防止重点地区)での巡視活動(過料の適用) ・地域が実施する迷惑行為防止活動に対する支援 ・小学生を対象としたモラル・マナーアップ教育 ・モラル・マナーアップに関する広報啓発	迷惑行為防止に係る地域活動団体の増加	現状値	82団体(H26年度)	目標	前年度(92団体)比増	前年度比増	24,022	23,519	27,887	6,150	課長	0.10人	順調	迷惑行為防止に係る地域活動団体数増加及び路上喫煙率について目標を達成していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 迷惑行為防止に係る地域活動団体数は前年度より増加し、活動の裾野が広がっている。また、路上喫煙率も減少しているため、「順調」と判断。  【課題】 円滑な巡視活動や活動の裾野の拡大のため広報や周知が必要。	現基本計画(第2次計画)の最終年度として目標達成に取り組むとともに、来年度から始まる第3次基本計画に向けて、新たな目標の制定を行い達成を目指す。
						実績	94団体	98団体	前年度比増(毎年度)	達成率											
					路上喫煙率(歩行者に占める喫煙者の割合)	現状値	小倉0.17% 黒崎0.24%(H26年度)	目標	前年度(小倉0.16%、黒崎0.36%)以下	前年度以下(毎年度)											
						実績	小倉0.13% 黒崎0.29%		小倉0.11% 黒崎0.23%												
						達成率	小倉118.8% 黒崎119.4%		小倉115.4% 黒崎120.7%												

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度	人件費(目安)			H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性	
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題		
Ⅲ-2-(1)-② 地域における伝統文化の発掘・継承	29	小倉祇園太鼓調査事業	文化企画課	平成28年3月2日、小倉祇園太鼓が国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されたことに伴い、その文化財としての価値を明らかにするべく、平成28年度から「小倉祇園太鼓調査委員会」を設置し、平成30年度まで調査を実施する。	調査報告書の刊行	—	目標 編纂執筆	刊行	刊行(H30年度)	10,000	10,813	8,486	11,050	課長	0.20人	順調	当初予定のとおり調査が完了し、報告書の刊行も完了したため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 目標とは多少の遅れがあるものの、文化財調査が順調に進んでおり、補助制度についても文化財保存団体への周知と適切な協議を進めることができたため「順調」と判断。  【課題】 指定無形民俗文化財の保存団体の自主的な申請に対して補助を行う制度については、急激に申請件数が増加するというものではないが、引き続き保存団体に対して周知を行う必要がある。	伝統文化の発掘や継承のため、今後も引き続き、文化財保存団体の活動の強化に資する補助制度を継続していく。	
	30	文化財保存補助	文化企画課	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承していく。	指定無形民俗文化財保存支援団体数	16団体(H26年度)	目標 16団体	17団体	17団体(H30年度以降毎年度)	1,072	1,122	1,015	11,050	課長	0.20人						順調
						実績 17団体	17団体							係長	0.50人						
						達成率	106.3%	100.0%							職員	0.50人					

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
Ⅲ-2-(2)-① 発信力の高い文化芸術の振興	31	芸術文化活性化事業	文化企画課	【劇場・自主事業】 エンターテインメントから芸術性の高い作品まで舞台芸術全般を網羅し、幅広い年代層をターゲットに公演を行う。また、北九州芸術劇場オリジナルの演劇作品等を制作し、公演を実施。	北九州芸術劇場・自主事業入場率 ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	目標	80 %	80 %	87% (R5年度)	119,874	95,130	90,618	3,550	課長	0.05 人	順調	北九州芸術劇場については、幅広い年代層を対象とした公演が提供され、入場率も目標値を上回った。 響ホール事業については、入場率の面で目標値を若干下回ったものの、国内外で活躍する著名な演奏家による公演や声楽コンサート、子どもも楽しめるファミリーコンサート等、幅広いラインナップをそろえ、来場者の満足度は高かった。 以上のことから、本市の文化振興に寄与したと判断し、「順調」とした。	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	R2年度予算要求に向けた施策の方向性
				実績		90 %	88 %	65% (R5年度)												
	達成率	112.5 %	110.0 %	65% (R5年度)	職員	0.17 人														
	【響ホール・自主事業】 室内楽専用ホールの特性を生かした質の高いコンサートや響ホールを拠点として地元演奏家を積極的に育てるコンサートを行う。また、響ホールからの発信を意識した、オリジナルティのある演奏会を実施。	響ホール事業・響ホール自主事業入場率	目標	65 %	65 %	65% (R5年度)	課長	0.17 人												
				実績	62.9 %	61.3 %	65% (R5年度)						職員	0.17 人						
	32	北九州国際音楽祭	文化企画課	地域の音楽文化の向上を図ることを目的に、クラシックコンサートを中心とした音楽祭に助成を行うもの。本音楽祭は、市制25周年を記念して始まり、令和元年度で32回を数え、本市の秋を彩る催し物として定着している。	北九州市国際音楽祭の満足度	目標	85 %	85 %	85% (R1年度)	40,000	29,953	49,395	1,625	課長	0.05 人	順調	海外オーケストラや世界で活躍する本市出身アーティスト等、国内外の一流の演奏家を招いて実施された。 入場者数も1万人を超え、満足度も高い水準を維持していることから、本市の文化振興に大きく寄与したと判断し、「順調」とした。	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
				実績	100 %	99 %	85% (R1年度)						係長	0.06 人		【評価理由】 劇場、響ホールは自主事業の実施により、文化芸術を発信し概ね目標を達成した。 北九州市国際音楽祭は、高い満足度を維持している。 また映像製作誘致強化関連事業について、高い認知度を維持し続けていること、松永文庫の来場者数が昨年度並み、企画展開催も計画どおり4回開催できたことから「順調」と判断。				
				達成率	117.6 %	116.5 %	85% (R1年度)						職員	0.06 人		【課題】 劇場、響ホールでは、高い入場率につながる魅力的な自主事業を発信していく必要がある。また、芸術文化の振興を街のにぎわいづくりにつなげていくことが重要と考える。 また、国内外に本市の魅力を発信する作品を誘致するため、より広くロケ候補地の情報を集める必要がある。			今後とも発信力の高い、まちの魅力づくりにつながる事業の実施を目指し、事業内容を検討し、効率性や収支の観点も加えながら、事業規模を維持していく。 また、映像製作誘致強化関連事業については、引き続きアジアを中心とする海外作品の誘致などに積極的に取り組み、「映画の街・北九州」という都市ブランドを国内外に広く発信していく。	
	33	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。 また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献(直接経済効果) ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	目標	110,000 千円	500,000 千円	150,000 千円 (R1年度以降毎年度)	49,388	50,205	54,331	47,100	課長	0.40 人	順調	地域経済への貢献については、目標値に対する達成率が37.4%であるものの、実績としては過去5番目であること、また、認知度についても8割を超える高水準を維持していることから「順調」と判断。	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
				実績	519,944 千円	187,088 千円	150,000 千円 (R1年度以降毎年度)							係長	2.00 人					
				達成率	472.7 %	37.4 %	85.0% (R1年度)							職員	3.00 人					
				目標	75.0 %	80.0 %	85.0% (R1年度)													
				実績	88.1 %	87.9 %	85.0% (R1年度)													
				達成率	117.5 %	109.9 %	85.0% (R1年度)													
	34	松永文庫企画事業	文化企画課	映画・芸能資料館「松永文庫」における企画展示・イベント等の積極的な開催を通じて、映画文化の振興、「映画の街・北九州」の情報発信に取り組む。	年間来館者数	目標	9万 人	10万 人	10万人 (毎年度)	9,600	9,813	8,924	4,900	課長	0.10 人	順調	来館者数の目標達成割合は8割程度であったが、来館者数の実績はほぼ昨年並みであった。企画展の実施回数は予定どおり達成できていることから「順調」と判断。	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
				実績	8万 人	7.8万 人	10万人 (毎年度)							係長	0.30 人					
				達成率	88.9 %	78.0 %	10万人 (毎年度)							職員	0.10 人					

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
Ⅲ-2-(2)-② 市民の文化芸術活動の促進	35	芸術文化育成負担金・補助金	文化企画課	本市の文化水準の向上及び地域文化の振興を推進することを目的として、積極的に文化活動を展開している文化団体等の事業に対して、助成を行う。	各種文化事業の実施 ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	16事業(H23年度)	目標 15 事業	16 事業	15事業(R1年度)	41,350	41,347	36,150	5,825	課長 0.05 人	順調	助成団体数は、前年度と同程度(前年度比1団体増の16団体)であり、各団体の事業は予定どおり実施され、多数の来場があった。この助成制度により、地域・市民レベルにおける文化活動を支える一定の効果があることから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 文化団体や市民の行う芸術・文化活動等を助成し、市民の文化芸術活動の促進に寄与したと判断できるため、「順調」とした。  【課題】 助成の内容や必要性を検討しながら、事業を実施していく必要がある。	助成制度は、市民レベルでの活動を支えるものであり、市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興のためにも、今後も継続して実施する。	
	36	北九州市文化振興基金	文化企画課	北九州市の文化水準の向上と地域文化の振興に資することを目的として設置された北九州市文化振興基金運用果実により、市民の行う芸術・文化活動等に対し助成を行う。	北九州市文化振興基金奨励事業の補助件数	27件(H21年度)	目標 25 件	25 件	25件(毎年度)	10,559	13,239	8,041	3,825	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.30 人						やや遅れ
Ⅲ-2-(2)-③ 市民が文化芸術に接する機会の拡大	37	美術館企画展充実事業	美術館普及課	美術館本館及び分館において、多彩で魅力ある企画展を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進する。	美術館の入館者数 ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	245,420人(H26年度)	目標 220,000 人	230,000 人	240,000人(R2年度)	144,123	126,293	121,428	36,750	課長 0.25 人	順調	企画展の入館者数が若干目標値に届かなかったが、コレクション展の実績は目標値を超えており、総合的に見て「順調」と判断。	順調	【評価理由】 美術館の入場者数は目標値を下回ったものの、博物館の入場者数が目標値を上回ったため、「順調」と判断。  【課題】 隣接する大規模テーマパークの閉園に伴い、修学旅行やツアー等の団体客の減少が見込まれる中、より魅力的な特別展・企画展の実施、より効果的な広報PRの展開等、ソフト事業を充実させる必要がある。また、文化庁の補助事業「東田地区ミュージアムパーク創造事業」における他施設との連携事業等を通じて、館独自の取り組みだけでなく、東田地区の連携事業についても積極的に取り組み、更なる集客増を図る必要がある。	これまで美術館に触れる機会の少なかった児童を対象とした「ミュージアム・ツアー」事業と連携し、来館者の年齢層や個人から家族への来館単位の変化に合せた企画展を研究し、より効果的な広報PRを行うなど、来館者の増加につなげたい。	
	38	博物館企画展・特別展充実事業	自然史・歴史博物館普及課	企画展・特別展は、特定のテーマを設けて自然史や歴史に関する展示を行うことによって、市民が楽しく学べる場を提供し、本市の学術文化の発展を図るもの。	博物館総入館者数	369,711人(H24年度)	目標 420,000 人	450,000 人	450,000人(H30年度以降毎年度)					49,922						40,361

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性					
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題						
Ⅲ-2-(2)-④ 文化芸術の担い手の育成	39	美術鑑賞事業「ミュージアム・ツアー」	美術館普及課	市内の小学3年生を対象に、美術作品の鑑賞体験型のプログラムを作成し、子どもたちに体験してもらうことでシビックプライドの醸成をはかる。	参加校の割合	14% (H29年度)	目標 15 %	実績 14 %	100% (R1年度)	35,000	30,883	5,568	25,650	課長 0.10 人	順調	対象を市内の全小学3年生に拡大し、台風などのアクシデントを除き、ほぼ目標を達成できたため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 目標に達していない事業もあるが、様々な分野の事業を実施している。 また、次世代の文化芸術の担い手となる子どもたちに対し、優れた文化・芸術に触れる機会を提供しており、文化芸術の担い手の育成に寄与していると判断し、「順調」とした。  【課題】 文化・芸術の担い手を育成していくためには、事業を効果的に周知するとともに、市民が文化・芸術に触れる機会を確保していくことが必要である。	次世代の担い手の育成は非常に重要な課題であり、シビックプライドの醸成という観点からも、子どもたちや若者が文化・芸術に接する機会を拡大していくことが必要である。 今後も、学校・地域等における教育普及活動(アウトリーチ)やホール等の文化施設における体験活動等、子どもたちの文化・芸術に接する機会の充実に向けて、事業内容を検討していきたい。						
	40	優れた文化・芸術との“出会い”創造事業	文化企画課	将来の文化・芸術の担い手を育成し、本市の文化振興をさらに進めるとともに、シビックプライドの醸成につなげていくため、若者や子どもたちを中心に優れた文化・芸術との“出会い”の場・機会を創造していく。	教育普及事業への参加者数の増加	2,500人 (H27年度)	目標 3,000 人	実績 5,179 人	3,000人 (R1年度)	10,000	8,124	12,317	8,725	課長 0.15 人						大変順調	小中学校等へのアーティストの派遣や、放課後児童クラブでの訪問コンサートの実施、東京藝術大学等の一流芸術家による指導等、子どもたちが優れた文化や芸術に触れることのできる機会を創ることができた。 参加者数も目標値を大きく上回る結果となったことから、シビックプライドの醸成や本市の文化振興に寄与したと判断し、「大変順調」とした。				
	41	現代美術センター・CCA北九州支援事業	文化企画課	CCA北九州は、現代美術の世界的な拠点のひとつとなることを目指して活動している研究・学習機関。国内外から集まる現代美術の若手アーティスト等の指導育成、招聘アーティストによる新作発表のための展覧会、国内外の第一線で活躍する学芸員による「キュレーターミーティング」を開催するとともに、CCA北九州のネットワークを活かして、その活動を広く市民に浸透させるための文化講座、子ども向けワークショップなどの事業を行っている。 これら事業を実施しているCCA北九州を支援するもの。	フェロシッププログラムの受講者数	6人 (H23年度)	目標 6 人	実績 5 人	5人 (R2年度)	40,000	39,958	44,719	8,150	課長 0.10 人									順調	CCA北九州のメイン事業であるフェロシッププログラムでは、昨年度と同様に受講生5人の確保を維持することができた。 市民対象の公開講座についても、実施回数が減ったにも関わらず、参加者数がわずかではあるが目標を上回る結果となった。 また、近隣の小学校と連携して、6年生の展覧会見学会を実施した。 以上のことから、若手アーティストの指導育成や、市民への浸透に一定の効果があったと判断し、「順調」とした。	
			CCA北九州事業参加者人数	2,122人 (H23年度)	目標 2,200 人	実績 2,037 人	1,800人 (R2年度)	職員 0.00 人																	
42	子どもノンフィクション文学賞	文学館	「ノンフィクション」というジャンルの作品を書くことで、子どもたちが人間や社会への関心をもつ契機となり、思考能力や人間としての成長を促すことを目的に、全国の小中学生を対象に創設した文学賞。	応募総数	570件 (H27年度)	目標 1,000 件	実績 713 件	1,000件 (R1年度)	10,942	9,110	9,137	9,300	課長 0.20 人	順調	全国紙の学生新聞とタイアップした広報により、応募総数は昨年度を上回った。応募作品の内容についても選考委員から高い評価をいただいていることから「順調」と判断。										
				目標 713 件	744 件		係長 0.40 人																		
				達成率 71.3 %	74.4 %		職員 0.40 人																		

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費 (目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた 施策の方向性
					指標名等	現状値 (基準値)	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
43	林芙美子文学賞	文学館	「放浪記」、「浮雲」などの作品で知られ、特に短編の名手として評価の高い林芙美子の名を冠する文学賞。多くの文学者、作家を輩出した北九州市の豊かな文学的土壌を全国に発信するとともに、これから文壇デビューを目指す新たな文学の才能を発掘することを目的に実施するもの。	「林芙美子文学賞」作品応募数	484件 (H29年度)	目標 700 件	実績 484 件	500件 (R1年度)	12,277	9,448	10,502	5,825	課長 0.05 人	順調	作品応募数は目標に至らなかったが、作家として書き続けていく力量を持った書き手に絞り込まれ、選考委員から一定の評価をいただいていることから「順調」と判断。					
44	「合唱の街づくり」推進事業	文化企画課	市民の歌声があふれる「合唱の街・北九州」の実現に向けて、子どもたちからシニア世代まで幅広い年代の多くの市民が、合唱する側や聴いて楽しむ側として参加するまちづくりを進めている。	合唱関連事業における歌い手としての参加者 ※中期目標改訂 (R1年度目標設定時)	682人 (H27年度)	目標 1,200 人	実績 976 人	400人 (R1年度)	7,000	7,394	9,647	7,150	課長 0.10 人	順調	合唱が盛んな本市の素地を活かし、合唱関連の様々な事業を行った。歌い手としての参加者は、目標を少し下回ったが、大連市との交流事業を実施するなど、新たな分野への取り組みを進めることができた。これにより、本市の文化振興に寄与したと判断し、「順調」とした。					

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H30年度		H29年度	人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性							
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価	局施策評価の理由及び課題					
Ⅲ-2-(2)-⑤ 文化芸術によるまちづくり	45	創造都市推進事業	東アジア文化都市推進室	文化芸術の力を活用した「創造都市・北九州」の実現に向け、東アジア文化都市2020北九州と連携しながら、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの推進等に取り組む。	2020年東京大会に向けた文化プログラムの認証件数(累計)	H28年度開始	目標 20件	実績 8件	27件	40件(R1年度)	5,300	4,841	6,533	18,000	課長 0.50人	大変順調	東アジア文化都市2020北九州に向けて準備を順調に進めており、文化プログラムの認証件数も増加しているため「大変順調」と判断。	順調	【評価理由】 映像製作誘致強化関連事業では高い認知度を維持し続けていること、各施設の来場者も概ね目標を達成できていることから「順調」と判断。 また、次世代の文化芸術の担い手となる子どもたちに対し、優れた文化・芸術に触れる機会を提供しており、文化芸術の担い手の育成に寄与している。	各事業を通じて、国内外へ「創造都市・北九州」としての都市ブランドを発信し、市民のシビック・プライドの醸成につなげる。 今後とも発信力の高い、まちの魅力づくりにつながる事業の実施を目指し、事業内容を検討し、効率性や収支の観点も加えながら、事業規模を維持していく。 また、来館者数の増加を目指し、各施設の連携・回遊性が高まる事業を実施するとともに、外国人がさらに訪れる地区となるよう多言語化対応を推進する。					
	46	北九州市漫画ミュージアム普及事業	漫画ミュージアム事務局	北九州市漫画ミュージアムにおいて、常設展示の充実・企画展・イベント等の開催を通じて漫画文化の普及を目指す。	漫画ミュージアム年間入場者数	H27年度	目標 100,000人	実績 88,277人	116,930人	10万人(毎年度)	76,050	73,939	67,512	44,000	課長 1.00人						順調	平成30年度は人気の高い巡回企画展を行うとともに、常設フロアにおいても、本市ゆかりの作家の貴重な作品展示や、企画展と連携した展示などを行うことで、来館者の増加が達成できたため「順調」と判断。	【課題】 文化・芸術の担い手を育成していくためには、事業を効果的に周知するとともに、市民が文化・芸術に触れる機会を確保していく必要がある。		
	47	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。 また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献(直接経済効果)	H21年度	目標 110,000千円	実績 519,944千円	187,088千円	150,000千円(R1度以降毎年度)	49,388	50,205	54,331	47,100	課長 0.40人									順調	地域経済への貢献については、目標値に対する達成率が37.4%であるものの、実績としては過去5番目であること、また、認知度についても8割を超える高水準を維持していることから「順調」と判断。
	47	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。 また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	北九州フィルム・コミッションの市民への認知度	H25年度	目標 75.0%	実績 88.1%	87.9%	85.0%(R1年度)					職員 3.00人										
	48	北九州文学サロン管理運営事業	文化企画課	女性俳句の草分けである杉田久女・橋本多佳子などのPR・顕彰に取り組むとともに、「北九州文学サロン」を拠点として、点在する文学的素材やさまざまな文化資源・文化的取組みをつなげる仕組みづくりを行う。	「北九州文学サロン」の来館者数	H28年度開設	目標 12,000人	実績 18,280人	20,210人	39,000人(H29~R1年度)	11,000	10,642	13,378	6,400	課長 0.10人										
48	北九州文学サロン管理運営事業	文化企画課	女性俳句の草分けである杉田久女・橋本多佳子などのPR・顕彰に取り組むとともに、「北九州文学サロン」を拠点として、点在する文学的素材やさまざまな文化資源・文化的取組みをつなげる仕組みづくりを行う。	「北九州文学サロン」の来館者数	H28年度開設	目標 12,000人	実績 18,280人	20,210人	39,000人(H29~R1年度)	係長 0.30人	職員 0.30人														
48	北九州文学サロン管理運営事業	文化企画課	女性俳句の草分けである杉田久女・橋本多佳子などのPR・顕彰に取り組むとともに、「北九州文学サロン」を拠点として、点在する文学的素材やさまざまな文化資源・文化的取組みをつなげる仕組みづくりを行う。	「北九州文学サロン」の来館者数	H28年度開設	目標 12,000人	実績 18,280人	20,210人	39,000人(H29~R1年度)	職員 0.30人															
49	松永文庫企画事業	文化企画課	映画・芸能資料館「松永文庫」における企画展示・イベント等の積極的な開催を通じて、映画文化の振興、「映画の街・北九州」の情報発信に取り組む。	年間来館者数	H26年度	目標 9万人	実績 8万人	7.8万人	10万人(毎年度)	9,600	9,813	8,924	4,900	課長 0.10人	順調	来館者数の目標達成割合は8割程度であったが、来館者数の実績はほぼ昨年並みであった。企画展の実施回数は予定どおり達成できていることから「順調」と判断。									
49	松永文庫企画事業	文化企画課	映画・芸能資料館「松永文庫」における企画展示・イベント等の積極的な開催を通じて、映画文化の振興、「映画の街・北九州」の情報発信に取り組む。	年間来館者数	H26年度	目標 9万人	実績 8万人	7.8万人	10万人(毎年度)	係長 0.30人	職員 0.10人														
49	松永文庫企画事業	文化企画課	映画・芸能資料館「松永文庫」における企画展示・イベント等の積極的な開催を通じて、映画文化の振興、「映画の街・北九州」の情報発信に取り組む。	年間来館者数	H26年度	目標 9万人	実績 8万人	7.8万人	10万人(毎年度)	職員 0.10人															

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善													
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)				H30年度		H29年度	人件費 (目安)			H30年度				R2年度予算要求に向けた 施策の方向性									
					指標名等	現状値 (基準値)	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価		局施策評価の理由及び課題								
50		松本清張記念館研究センター・普及事業	松本清張記念館事務局	松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業の実施や研究誌を発行する。また、松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を実施する。 さらに、企画展の開催や講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行う。	松本清張記念館の入館者数	58,187人 (H22年度)	目標 前年度 (48,404人) 比増	前年度比増	前年度比増 (毎年度)	27,841	27,073	11,930	23,250	課長	0.50 人	順調	入館者数、企画展の満足度ともに概ね目標を達成しているため「順調」と判断。											
						実績	47,205 人	42,502 人						係長	1.00 人													
						達成率	97.5 %	90.0 %						職員	1.00 人													
51		児童文学の顕彰事業	文化企画課	本市ゆかりの児童文学を顕彰することを目的に、資料や情報資源を集約した場を設けて継続した調査・研究・普及していく拠点とする。	顕彰することを目的とした場の整備	—	目標 図面作成	施設完成	完成 (H30年度)	51,000	51,702	9,967	6,400	課長	0.10 人	順調	平成30年度にオープンした子ども図書館の一角に、「私たちのまちの児童文学コーナー」として、本市ゆかりの児童文学を顕彰するコーナーを予定通り開設したため、「順調」と判断。											
						実績	図面作成	施設完成						係長	0.30 人													
						達成率	—	—						職員	0.30 人													
52		文化関連施設多言語化推進事業	文化企画課	八幡・東田地区において、いのちのたび博物館を中核として、周辺施設が連携し、地域の活性化やインバウンドの取り込みにつなげるため、面的・一体的に事業を実施するもの。また、2020年に文化クラスターのシンボルイベントとして「ART for SDGs」を開催する。	東田地区における文化関連施設3館の来館者数の増加率 (対H29年度比)	約73万人 (H29年度)	目標	—	—	10%増 (R2年度)	6,000	3,014	—	10,150	課長	0.10 人	順調	平成30年7月に国から採択を受け、連携企画展やイベントの開催、多言語化対応のホームページの制作などに取り組んだ。 東田地区3館の合計来館者数は約70.5万人 (外国人約8,000人) で、隣接する大規模テーマパークが閉園する大きな影響を受けた中で、平成29年度比で4%の減少に抑えられたことから「順調」と判断した。										
					実績	—	4 % 減	係長	0.90 人																			
					達成率	—	—	職員	0.00 人																			
					東田地区における文化関連施設3館の外国人来館者数の増加率 (対H28年度比)	約9千人 (H28年度)	目標	—	10 % 増	30%増 (R2年度)																		
					実績	—	11 % 減	課長	0.10 人																			
					達成率	—	—	係長	0.90 人																			
東田地区における文化関連施設3館の外国人来館者数の増加率 (対H28年度比)	約9千人 (H28年度)	目標	—	10 % 増	30%増 (R2年度)																							
実績	—	11 % 減	職員	0.00 人																								
達成率	—	—	課長	0.10 人																								



平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)				H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性		
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価		局施策評価の理由及び課題	
Ⅲ-2-(3)-① 誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり	53	市民体育祭	スポーツ振興課	「市民皆スポーツ」をモットーに、スポーツ・レクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で明るい市民生活に寄与するため、市内全域で各種大会や行事を開催。	市民体育祭選手参加者数 ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	30,367人(H26年度)	目標 30,000人 実績 31,058人 達成率 103.5%	28,000人 29,973人 107.0%	21,000人(R1年度以降毎年度)	7,400	7,400	8,500	4,650	課長 係長 職員	0.10人 0.20人 0.20人	順調	市民体育祭の選手参加者数が目標を上回っているため、「順調」と判断。				
	54	生涯スポーツ振興事業	スポーツ振興課	生涯スポーツの普及・振興のため、各区においてスポーツ教室、ニュースポーツ体験会などを開催。	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数 ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	12,371人(H26年度)	目標 12,600人 実績 18,127人 達成率 143.9%	12,600人 18,163人 144.2%	15,000人(R1年度以降毎年度)	19,612	19,103	19,732	990	課長 係長 職員	0.01人 0.05人 0.05人	大変順調	各区子どもまつりと同時開催することにより、目標を上回る参加者数となっており、「大変順調」と判断。				
	55	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	スポーツ振興課	地域住民の自主的な運営により、身近な地域で様々なスポーツに親しむことのできる総合型地域スポーツクラブの育成・支援に取り組む。	総合型地域スポーツクラブの会員数	1,800人(H22年度)	目標 3,000人 実績 2,418人 達成率 80.6%	3,300人 1,988人 60.2%	R2年度までに4,000人	3,459	3,388	3,455	2,325	課長 係長 職員	0.05人 0.10人 0.10人	やや遅れ	総合型地域スポーツクラブの講座の一部終了や各クラブの会員数の精査の結果、会員数が減少したため、「やや遅れ」と判断。	【評価理由】 「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進するため、各事業において設定した成果指標の目標を概ね達成しており、「順調」と判断。			
	56	夢・スポーツ振興事業	スポーツ振興課	トップアスリート等の活用により、オリンピック選手など国際、全国大会で活躍する、次世代を担うトップアスリートを育成するとともに、スポーツに対する意欲を醸成する。	選手強化事業参加者数 ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)  教室・強化講習会等の実施	210人(H26年度)  5種目(H26年度)	目標 450人 実績 1,337人 達成率 297.1%	500人 2,329人 465.8%  10種目 10種目 200.0%	1,000人(毎年度)  毎年度5種目以上(R1年度まで)	8,000	7,793	7,196	6,305	課長 係長 職員	0.02人 0.24人 0.49人	大変順調	選手強化事業参加者数、強化講習会等の実施種目数が目標を大きく上回っているため、「大変順調」と判断。	【課題】 「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」において、目玉事業のひとつである「北九州マラソン」を継続開催するとともに、より満足度の高い大会となるように工夫をしていく必要がある。 また、地域住民が自主的にスポーツの場や機会を創り、地域社会全体のスポーツ環境を形成する、総合型地域スポーツクラブの会員数を増加させる取組を強化する必要がある。			
57	北九州マラソン開催事業	スポーツ振興課	・コース：北九州市役所前～東田地区～戸畑駅前～東港～門司港～北九州国際会議場前 ・種目及び参加人数 マラソン：11,000名、ペアリレーマラソン：150組300名、ファンラン(3km又は5km)：1,000名	マラソン大会開催による経済波及効果  インターネットでのマラソン大会全国評価ランキング(参加者7,000人以上の大会を対象)  ボランティアリーダー登録者数(H30年度からの取組み) ※指標追加(R1年度目標設定時)	10.5億円(H25年度)  9位(H28年度)  15人(H30年度)	目標 11.5億円 実績 10.3億円 達成率 89.6%	11.5億円 — —  1位 9位 —  15人 —	11.5億円(R4年度までに)  1位(R1年度)  50人(R4年度)	89,663	89,753	104,266	59,750	課長 係長 職員	1.50人 2.00人 3.00人	順調	インターネットの全国ランキングで常に上位を維持しており、ランナー(「する人」)から高い評価をいただいている。「見る人」「支える人」についても、多くのボランティアと途切れることのない沿道からの応援によって大変な盛り上がりを見せており、加えて、新しくボランティアリーダー養成の取り組みを始めている。以上のことから「順調」と判断。					

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性					
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題						
Ⅲ-2-(3)-② スポーツを通したにぎわいづくり	58	国際大会・全国大会等スポーツ開催	スポーツ振興課	市内での国際大会等の開催により、「みる」スポーツの機会の拡大を図り、多くの市民のスポーツへの関心の向上及び個々の競技力の向上等につなげる。	国際・全国大会等の開催数	目標	27 回	28 回	30回 (R2年度)	3,650	3,600	3,750	2,615	課長	0.01 人	大変順調	国際・全国大会等の開催数及び門司港レトロマラソンの参加人数がともに目標を上回っているため、「大変順調」と判断。	順調	【評価理由】 「スポーツを通したにぎわいづくり」のため、本市のシンボルチームであるギラヴァンツ北九州の支援や、ラグビーワールドカップ2019及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地誘致活動等、各種大規模大会の誘致活動を実施しており、各事業で設定した目標を概ね達成しているため、「順調」と判断。  【課題】 ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数や、スポーツ観戦率が目標に届いていないことから、今後もミクニワールドスタジアム北九州を活用するなど、「見る」スポーツの更なる振興を図る必要がある。	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地誘致活動を継続・活発化させるとともに、その他各種大規模大会の誘致についても引き続き実施していく。 また、ミクニワールドスタジアム北九州を活用するなど、「見る」スポーツの更なる振興を図っていく。					
						実績	28 回	40 回													達成率	103.7 %	142.9 %	係長	0.10 人
						目標	3,000 人	3,000 人													実績	3,051 人	3,029 人	達成率	101.7 %
59	ギラヴァンツ北九州支援事業	スポーツ振興課	本市のシンボルチームである「ギラヴァンツ北九州」を支援するため、ホームゲーム開催経費や遠征費の一部を補助。	ギラヴァンツ北九州の市民認知度	目標	90 %	90 %	90% (毎年度)	50,000	50,000	60,000	3,075	課長	0.05 人	順調	ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数は、チームの成績低迷により目標に届かなかったが、J3リーグでトップの入場者数であったことや、ギラヴァンツ北九州の市民認知度は前年度を上回り、ほぼ目標どおりとなったことから、「順調」と判断。									
					実績	82 %	86.3 %												達成率	91.1 %	95.9 %	係長	0.10 人		
					目標	5,000 人	7,000 人												実績	5,939 人	4,501 人	達成率	118.8 %	64.3 %	職員
60	ホームタウン推進事業	スポーツ振興課	本市をホームタウン・準ホームタウンとする、「ギラヴァンツ北九州」や「堺プレイザーズ」「福岡ソフトバンクホークス」等の市民観戦事業や、体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施。	スポーツ観戦率	目標	40 %	40 %	40% (R2年度)	63,450	51,911	58,978	6,575	課長	0.05 人	順調	スポーツ観戦率は目標に届かなかったが、本市のシンボルチームであるギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数は所属するJ3リーグでトップの入場者数であったことや、福岡ソフトバンクホークス公式戦では平均入場者数が定員の9割超で良好に推移していること、また市民観戦事業の対象にライジングゼファーフクオカ(プロバスケットボール)などスポーツ種目を追加し、市民のスポーツ観戦機会を拡充していることから「順調」と判断。									
					実績	27 %	25 %												達成率	67.5 %	62.5 %	係長	0.15 人		
					目標	40 %	40 %												実績	27 %	25 %	達成率	67.5 %	62.5 %	職員

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
61		大規模国際スポーツ大会等誘致関係事業	国際スポーツ大会推進室	生涯スポーツの振興やまちの賑わい創りに繋がる大規模国際スポーツ大会の試合会場、及びラグビーワールドカップ2019や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地を本市に誘致すること、並びに誘致前後のスポーツ交流や文化交流等へと繋げることを目的として、誘致プロモーションの展開や官民一体となった「誘致委員会」による積極的な活動を行う。	ラグビーワールドカップ2019及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるキャンプ地誘致数	—	戦略的な誘致プロモーション活動等の実施 1 競技	戦略的な誘致プロモーション活動等の実施 3 競技	1ヶ国又は1競技以上(R1年度)	62,000	86,482	62,879	64,000	課長	1.00 人	大変順調	ラグビーワールドカップ2019及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるキャンプ地誘致件数が中期目標を達成し、さらに前年度を上回ったこと、国際スポーツ大会についても目標件数を達成していることから「大変順調」と判断。			
					国際スポーツ大会等の開催	4件(H27年度)	3 件	3 件	15件以上(H27~R1年度)					係長	3.00 人					職員
62		北九州スタジアム維持管理事業	スポーツ振興課	北九州スタジアムは、都心部に人が集い、にぎわいあふれる北九州市の創出を目指し、Jリーグやラグビートップリーグなどの試合、小中高生のサッカー・ラグビー大会、グラウンド・ゴルフ大会、子どもたちへの芝生開放などに加え、まちににぎわいを生み出すイベントの開催など、市民に夢と感動を提供できる施設である。施設の適切な維持管理・運営を実施することで、「みる」スポーツの機会提供の充実を図り、スポーツを通じたまちのにぎわいを生み出す。	「みる」スポーツの機会提供の充実(グラウンドの年間利用日数)	—	目標 100 日	100 日	100日(毎年度)	102,355	102,355	95,955	2,750	課長	0.05 人	順調	Jリーグやラグビートップリーグなどスポーツの利用に加え、イベントの開催や子供たちの芝生体験、ウォーキング大会など様々な形での利用があり、にぎわい創出に寄与できた。グラウンドの年間利用日数について、目標を達成することができたが、指定管理者が掲げた来場者数については、目標21万人に対して13.8万人と下回ったため、「順調」と判断。			
							実績 115 日	127 日						係長	0.09 人					
							達成率 115.0 %	127.0 %						職員	0.17 人					

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標 (目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費 (目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた 施策の方向性
					指標名等	現状値 (基準値)	H29年度	H30年度	中期 目標	予算額 (千円)	決算額 (千円)	決算額 (千円)	金額 (千円)	職位	人数	事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
Ⅲ-3-(1)- ① 市民主体 の地域づく りの促進	63	地域総括補助金	地域振興課	各地域団体が連携・協力し、まちづくり協議会を中心に地域が一体となった地域づくりを促進するため、これまで市各部署が事業ごとに地域団体に交付していた補助金を可能な限り一本化し、まちづくり協議会に交付する。	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数	130団体 (H26年度)	目標 134 団体	133 団体	134 団体	137団体 (R5年度)	332,496	301,855	324,012	3,825	課長 0.05 人	順調	補助金の導入団体数は、概ね目標を達成していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 地域カルテフォローアップ事業を実施したまちづくり協議会の数は目標値に届かなかったものの、市内全体を対象としている地域総括補助金の交付は前年並みに行われていることから、「順調」と判断。  【課題】 地域が抱える課題や、その解決に向けた取り組みの内容は様々であり統一的な施策による支援が困難であるが、他の事業局や区役所コミュニティ支援課等と連携しながら、地域が主体的に地域課題を解決することができるよう、市民主体の地域づくりに努める必要がある。	引き続き、地域が一体となった市民主体の地域づくり・まちづくりを促進するため、まちづくり協議会や、地域で様々な取り組みを行う各種地域団体等に対し、「地域総括補助金」の交付や、各種支援事業などの地域のニーズに応じた施策を展開する。
	64	住民主体の地域づくりの促進	地域振興課	まちづくり協議会を中心としたネットワークを構築し、まちづくり協議会が相互に情報を共有し交流できる場を設けるなど、住民主体の地域づくりを進める。	地域カルテフォローアップ事業を実施したまちづくり協議会の数	—	目標 10 団体	4 団体	5 団体	住民主体の新たな地域づくりが活発に行われている状態	3,012	2,382	3,524	3,575	課長 0.05 人					
Ⅲ-3-(1)- ② 地域コ ミュニ ティ施設 の活用・ 運営	65	市民センターの充実	地域振興課	市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により多様な人材を市民センター館長として採用し、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行う。  また、市民センターを拠点とした地域づくりを推進するため、未整備校区に市民(サブ)センターを整備し、老朽化対策やバリアフリー化を図り計画的な改修を行う。	市民センター1館当たりの利用者数	41千人 (H27年度)	目標 42 千人	40 千人	42 千人	42千人 (毎年度)	2,270,486	2,200,853	2,205,624	46,250	課長 1.00 人	順調	老朽化対策やバリアフリー化等ハード面の整備を、予定通り行うことができた。また、円滑な施設運営ができるよう、館長及び市民センター職員の職場環境の改善に努めた結果、市民センターのコミュニティ活動に参加する人数が前年度実績を上回ったため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市民センターの老朽化対策やバリアフリー化等のハード面を、計画どおり整備することができた。また、市民センター館長への研修を実施し、まちづくり協議会との連携について、共有することができたため「順調」と判断。  【課題】 地域の課題は多様化しており、課題を踏まえた対策を検討することが必要である。また、市民センターの利用区分を1時間ごとに変更したことによる影響を精査する必要がある。	市民センターを拠点とした地域づくりを促進するため、老朽化対策やバリアフリー化等ハード面を整備するとともに、館長及び市民センター職員の能力向上を図る研修や、タイムリーな情報発信等ソフト面の充実に努め、利用者の増加を図る。
					市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数(延べ)	2,084千人 (H27年度)	目標 2,200 千人	2,040 千人	2,103 千人	2,200千人 (毎年度)					課長 1.00 人					
Ⅲ-3-(1)- ③ 自治会・ 町内会へ の加入促進	66	自治会・町内会活性化の促進	地域振興課	自治会と連携しながら、加入率向上や組織・活動の見直し及び人材育成など新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組む、自治会・町内会の活性化を図る。	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合	81.0% (H29年度)	目標 85 %	81.0 %	85 %	85% (毎年度)	30,789	29,455	30,483	4,095	課長 0.03 人	順調	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合、地域づくり活動への参加者の割合については、双方とも前年度実績を上回っているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 自治会・町内会の加入促進や活発化に繋がる広報・研修については、自治総連合会と連携しながら継続的に取り組んでいる。「地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合」「地域づくり活動への参加者の割合」は前年度実績をそれぞれ上回っているため「順調」と判断。  【課題】 若い世代への働きかけや、マンション等の自治会加入促進に向けた取組みなどにより、自治会・町内会の活性化に努めていく必要がある。	自治会・町内会を取り巻く課題を解決し活性化を促進するために、マンション等の管理会社等の関係者に積極的に働きかけていくほか、引き続き地域コミュニティの重要性や自治会の必要性について幅広く理解を求めるとともに力を入れていく。 また、地域でリーダーシップを発揮する人材や地域活動の担い手育成支援を積極的に行い、自治会・町内会の加入促進や活性化を図っていく。
					地域づくり活動への参加者の割合	39.6% (H29年度)	目標 46 %	39.6 %	40.8 %	46% (毎年度)					課長 0.10 人					

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性			
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度		H30年度		中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由		局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
Ⅲ-3-(2)-① NPO、ボランティア活動の支援	67	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計) ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	現状値	88法人	(H29年度)	99法人	(H30年度)	135法人	(R2年度)	19,990	18,324	18,588	19,725	課長	0.15人	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 目標を概ね達成しており、NPO等に対する支援が市民活動の活性化に寄与しているとして「順調」と判断。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。
						達成率	97.8%	94.3%															
						目標	90法人	105法人															
	68	NPO公益活動支援事業	市民活動推進課	市民活動の更なる促進を支援するため、NPO等が専門性を発揮して行う活動に対し、事業費の一部を補助する。	補助交付事業件数(累計) ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	現状値	86件	(H29年度)	99件	(H30年度)	120件	(R2年度)	1,989	2,539	1,845	3,275	課長	0.10人	順調	補助交付事業件数及び成果発表会の参加人数が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	【課題】 さらなる市民活動の支援によってNPO・ボランティア活動参加者の掘り起こしにつなげていく必要がある。	
						達成率	107.5%	115.1%															
						目標	80件	86件															
69	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	現状値	5件	(H29年度)	5件	(H30年度)	5件	(R2年度)	2,627	1,265	2,607	2,470	課長	0.03人	順調	NPOと企業・地域・大学との交流会等を通して、団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【課題】 交流会等の参加団体へのフォローアップ等を行い、団体間の協働事業の立ち上げを支援する必要がある。		
					達成率	100.0%	100.0%																
					目標	5件	5件																

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
Ⅲ-3-(3)-① 市民参画と協働のための仕組みづくり	70	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計) ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	1,555人(H29年度)	目標 1,250人 実績 1,555人 達成率 124.4%	1,500人 1,887人 125.8%	2,000人(R2年度)	2,227	991	964	6,400	課長 0.10人 係長 0.30人 職員 0.30人	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数及び収入増加団体数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 目標を達成しており、団体の資金調達力の向上や協働の推進に対する効果的な支援ができていたとして「順調」と判断。 【課題】 多様な主体による協働をさらに推進するため、各団体間のネットワークをさらに構築・拡大する必要がある。	協働への理解を深めるセミナーやNPOと様々な団体の交流会の開催等、各団体間の自主的な協働の側面支援に引き続き取り組んでいく。	
	71	多様な主体による市民活動の輪づくり事業	市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動への理解を深め、新たな担い手の参加を促すとともに、NPOと様々な団体間のネットワークづくりや協働を支援する。	NPOと企業・地域・大学等との協働件数	5件(H29年度)	目標 5件 実績 5件 達成率 100.0%	5件 5件 100.0%	5件(R2年度)	2,627	1,265	2,607	2,470	課長 0.03人 係長 0.10人 職員 0.15人	順調	NPOと企業・地域・大学との交流会等を通して、団体間のネットワークを構築し、協働件数が目標を達成しているため「順調」と判断。				
Ⅲ-3-(3)-② 市民との協働を推進できる市役所づくり	72	NPO・市民活動促進事業	市民活動推進課	市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。	新規設立NPO法人数(累計) ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	88法人(H29年度)	目標 90法人 実績 88法人 達成率 97.8%	105法人 99法人 94.3%	135法人(R2年度)	19,990	18,324	18,588	19,725	課長 0.15人 係長 0.30人 職員 2.00人	順調	新規設立NPO法人数及びサポートセンター利用者が目標を概ね達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 各事業の目標を概ね達成しており、市民との協働を推進しているとして「順調」と判断。 【課題】 市民活動の担い手の育成や、協働に対する啓発をさらに推進する必要がある。	市民との協働を推進するため、協働意識向上のための研修、セミナー等の充実、NPO・市民活動に関する情報提供に取り組む。	
	73	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業	市民活動推進課	協働に関する理解を深めるための研修、協働事業を実施するために必要な団体運営力向上を図るための研修を実施する。また、経済的に自立したNPOの増加を図るため、資金調達力や企画力の向上を図るセミナーを実施する。	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計) ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	1,555人(H29年度)	目標 1,250人 実績 1,555人 達成率 124.4%	1,500人 1,887人 125.8%	2,000人(R2年度)	2,227	991	964	6,400	課長 0.10人 係長 0.30人 職員 0.30人	順調	NPOとの協働についての研修への参加者数及び収入増加団体数が目標を達成しているため「順調」と判断。				

平成30年度 行政評価の取組結果(市民文化スポーツ局)

【Plan】 計画 / 【Do】 実施															【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標(目標・実績)					H30年度		H29年度		人件費(目安)		H30年度				R2年度予算要求に向けた施策の方向性
					指標名等	現状値(基準値)	H29年度	H30年度	中期目標	予算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	金額(千円)	職位	人数	事業評価	評価の理由	局施策評価	局施策評価の理由及び課題	
IV-2-(2)-② ソーシャルビジネス創出の支援	74	市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業	市民活動推進課	環境未来都市計画が掲げる目標を達成するため、NPOなどの提案団体と市・企業・地域等が協働して取り組む事業に経費の一部を補助。	補助交付事業件数(累計)	目標	31 件	36 件	36件(H30年度)	4,206	2,874	4,780	3,275	課長	0.10 人	順調	NPO法人の専門性を活用した事業が実施され、その活動を支える補助交付件数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 NPOの専門性を活用した事業を支援することにより、協働理念の理解を深め、NPOによる新たなビジネス創出のための団体運営力向上に寄与できたため「順調」と判断。  【課題】 多様な主体と事業を協働実施できるNPO法人等の固定化。	市民との協働を推進するため、協働意識向上のための研修、セミナー等の充実、NPO・市民活動に関する情報提供に取り組む。
						実績	32 件	36 件						職員	0.15 人					
						達成率	103.2 %	100.0 %												
IV-4-(1)-② 偉人・先人の顕彰	75	文学館普及研究費	文学館	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介するとともに、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信する。	入館者数 ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	目標	22,000 人	22,000 人	7,500人(R1年度)	19,455	16,912	18,628	12,625	課長	0.50 人	順調	入館者数は、常設展では減少したものの特別企画展では増加し、目標を概ね達成したため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 様々な角度から偉人を紹介する企画展示等により、来場者の目標を概ね達成しているため「順調」と判断。  【課題】 更なる入館者数の増加を目指し、より集客力のあるイベントや企画展の開催、常設展示の見直しなど、若年層などの入館を促す仕組みづくりが必要。	リニューアルによる魅力ある施設づくりを行うとともに、入館者増加に結びつくイベント・企画展に取り組み、来館者やリピーターの増加を図る。
						実績	22,536 人	21,711 人						係長	0.50 人					
						達成率	102.4 %	98.7 %						職員	0.25 人					
	76	松本清張記念館研究センター・普及事業	松本清張記念館事務局	松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業の実施や研究誌を発行する。また、松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を実施する。さらに、企画展の開催や講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行う。	松本清張記念館の入館者数	目標	前年度(48,404人)比増	前年度比増	前年度比増(毎年度)	27,841	27,073	11,930	23,250	課長	0.50 人	順調	入館者数、企画展の満足度ともに概ね目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 高い認知度を維持し続けていることから「順調」と判断。  【課題】 国内外に本市の魅力を発信する作品を誘致するため、より広くロケ候補地の情報を集める必要がある。	引き続きアジアを中心とする海外作品の誘致などに積極的に取り組み、「映画の街・北九州」という都市ブランドを国内外に広く発信していく。
						実績	47,205 人	42,502 人						係長	1.00 人					
						達成率	97.5 %	90.0 %						職員	1.00 人					
IV-4-(2)-③ 都市イメージの向上	77	映像製作誘致強化関連事業	文化企画課	映画・テレビドラマ等のロケ地誘致や撮影支援を積極的に行い、本市の知名度と都市イメージの向上を図る。また、活動成果の市民との共有や、「映画の街・北九州」という都市ブランドの発信により、街のにぎわいの創出や市民交流等のまちづくりにつなげる。	地域経済への貢献(直接経済効果) ※中期目標改訂(R1年度目標設定時)	目標	110,000 千円	500,000 千円	150,000 千円(R1年度以降毎年度)	49,388	50,205	54,331	47,100	課長	0.40 人	順調	地域経済への貢献については、目標値に対する達成率が37.4%であるものの、実績としては過去5番目であること、また、認知度についても8割を超えて高水準を維持していることから「順調」と判断。	順調	【評価理由】 高い認知度を維持し続けていることから「順調」と判断。  【課題】 国内外に本市の魅力を発信する作品を誘致するため、より広くロケ候補地の情報を集める必要がある。	引き続きアジアを中心とする海外作品の誘致などに積極的に取り組み、「映画の街・北九州」という都市ブランドを国内外に広く発信していく。
						実績	519,944 千円	187,088 千円						係長	2.00 人					
						達成率	472.7 %	37.4 %						職員	3.00 人					
VI-1-(1)-① 市民の力で環境力を高める仕組みづくり	78	市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業	市民活動推進課	環境未来都市計画が掲げる目標を達成するため、NPOなどの提案団体と市・企業・地域等が協働して取り組む事業に経費の一部を補助。	補助交付事業件数(累計)	目標	31 件	36 件	36件(H30年度)	4,206	2,874	4,780	3,275	課長	0.10 人	順調	NPO法人の専門性を活用した事業が実施され、その活動を支える補助交付件数が目標を達成しているため「順調」と判断。	順調	【評価理由】 NPOの専門性を活用した事業を支援することにより、協働理念の理解を深め、NPOの団体運営力向上に寄与できたため「順調」と判断。  【課題】 多様な主体と事業を協働実施できるNPO法人等の固定化。	市民との協働を推進するため、協働意識向上のための研修、セミナー等の充実、NPO・市民活動に関する情報提供に取り組む。
						実績	32 件	36 件						係長	0.10 人					
						達成率	103.2 %	100.0 %						職員	0.15 人					